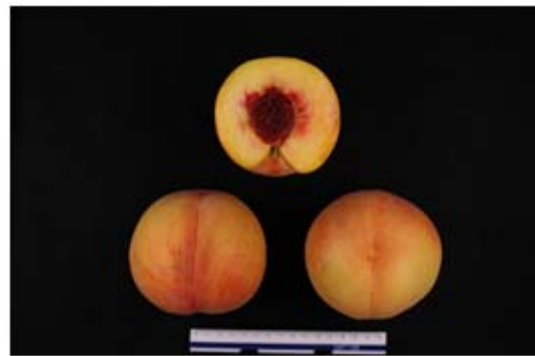


大果で食味の優れる黄肉モモ新品種 「つきかがみ」

これまでわが国における生食用モモの生産は白肉品種がほとんどで、黄肉品種は缶詰用のイメージがあり生食用の生産は多くはありませんでした。しかし、近年消費の多様化から生食用黄肉品種の栽培が増加しており、優良な黄肉品種の要望が多くなっています。そこで、黄肉で果実品質が高く、無袋栽培でも裂果が発生しない黄肉モモ新品種「つきかがみ」を育成したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 1991年(平成3年)に農林水産省果樹試験場(現:農研機構果樹研究所)において、黄肉のモモ筑波115号とモモ筑波105号を交雑して得られた実生から選抜しました。鏡に映った月のように綺麗な黄色で、果実の表面が滑らかなことから「つきかがみ」と命名されました。
2. 樹姿はやや直立し、樹勢は強くなります。開花盛期は育成地(茨城県つくば市)で4月6日頃になります。花芽の着生は多く、花粉を有し、結実良好ですが、年により「黄金桃」と同程度かやや多い収穫前落果が発生します。収穫盛期は育成地では8月21日頃で、「黄金桃」より1週間程度遅い晩生品種です。
3. 果形は扁円形から円形で、果実重は350g以上と大果になります。果皮の地色は黄色で着色は「黄金桃」より少ないです。果皮が滑らかで裂果性が小さいため、無袋栽培が可能です。果肉色は黄色で、核周囲の紅色素は「黄金桃」よりやや多くなります(写真)。肉質は溶質で、「黄金桃」よりも緻密です。核は離核です。糖度は「黄金桃」よりわずかに低いものの13~14%程度あり、酸度はpHで4.3前後と酸味は「黄金桃」に比べてやや少ないです。やや渋味を感じる年があるが、食味良好です。



写真

☆活用面での留意点

1. 山形県以南のモモ栽培地域で栽培が可能です。東北北部以北における栽培の可否は不明です。
2. 「黄金桃」に続いて収穫期を迎えるため、生食用黄肉品種の継続的供給に有効です。
3. 着色性は「黄金桃」より劣るため、着色管理をする場合には注意が必要です。
4. 詳細については(独)農研機構果樹研究所(電話:029-838-6416)にお問い合わせください。

(果樹研究所品種育成・病虫害研究領域・主任研究員 八重垣英明)